

在中国日本大使館に勤務して

第一東京弁護士会会員・日本大使館一等書記官

廣瀬 史乃 ● Hirose, Shino

1 終戦記念日

8月15日の終戦記念日を控え、北京の日本大使館内は、緊張が高まっています。門の前には公安のパトカーが止まり、警備体制も強化されています。今般、麻生首相が靖国神社には参拝しない旨を示唆したことから、デモや暴動の対象になる可能性は低いとされていますが、それでも小規模のデモ行進は必至です。こちらで生活をしていると、両国間の戦争の傷跡はまだまだ生々しいと実感します。

2 大使館の業務

私は、第一東京弁護士会・第52期の弁護士ですが、所属している阿部・井窪・片山法律事務所から時間を頂き、外務省の任期付公務員となり、昨年4月から北京の在中華人民共和国日本大使館において、経済部・領事部兼任の一等書記官として執務をしています。大使館では、大使を筆頭に、次席公使、公使(総務、政治、経済、広報文化、領事の各部の部長)、参事官、一等書記官、二等書記官、三等書記官、領事相談員、専門調査員、派遣員、外部嘱託員そして現地中国人職員が勤務しています。私は、在外公館に勤務している弁護士ではリーディングケースだそうで、それだけ日中間のビジネストラブルが多いということの意味しています。

日本大使館は、世界中の在外公館の中でもアメリカのワシントン大使館の次に大きい規模の在外公館で、現在、大使以下日本人は総勢100名、中国人職員を含めると約200名になります。大使館内部は、総務部、政治部、

経済部、広報文化部、領事部の5部に分かれています。総務部はさらに、総務班、儀典班、通信班、会計班、営繕班、医務班、警備班に分かれていて、大使館内外の総務関係(場合により、政治、経済案件も含む)を担当し、外務省員のほか、医務班には医務官(医師資格のある者)、警備班は警察官(警視庁あるいは警察庁からの出向者及び警備会社からの出向者)が配属されています。また、総務班には民間企業からの出向者(航空会社やホテル関係等)も数人おります。

政治部は、中央政府等との政府間交渉や内政調査、研究等を担当しており、外務省員のほか、法務省から検察官が、また警察庁、自衛隊や海上保安庁からも出向者がいます。また、いわゆる「国家機密」を最も多く扱っているのも、この政治部といえます。

経済部は、館内で最も人数が多く、総勢30名を抱えています。経済産業省から3名、厚生労働省から3名、財務省から1名、国税局から1名、農林水産省から2名、国土交通省から2名等、「ミニ霞が関」状態です。商務部との窓口となり、アンチダンピングや独占禁止法問題、知財問題等は経済産業省アタッシェが、日本からの輸出米や松坂牛の商標問題は農林水産省アタッシェが、毒入り餃子事件やメラニン入り牛乳あるいは労務問題等は厚生労働省アタッシェが、それぞれ最前線に立って、交渉を続けています。

領事部は、邦人保護班と査証班に分かれています。査証班は、中国人に日本入国のための査証を発行する部門で、班長は法務省入国管理局のベテランがつとめ、班員は外務省員のほか、長崎県庁や大阪府庁から職員が出向しています。ビザ班の業務は、問題のある中国人を日本に入国させないことはこれまでど

おりですが、他方で、7月1日から個人向け観光が解放され、できるだけ多くの中国人を日本の旅行に誘致したいという狙いもあることから、査証班員の新たな分野での活躍も期待されています。

私が所属している邦人保護班は、日本人の生命、身体、財産を守ることを担当しており、現在は、全員が外務省員です。パスポートや財布の盗難や喪失、迷子の救助や行方不明者の捜索、邦人の犯罪被害や加害案件、精神異常者の保護、涉外離婚に関する相談、地元政府とのトラブル、中国企業とのビジネストラブル、裁判や仲裁の結果に対する不満の対応等、枚挙にいとまはありません。近時は特に、精神病患者の案件、マッサージ店での性的トラブルの案件が目につきます。

私は、経済部と領事部(邦人保護班)の兼任で、昨年4月に赴任した際は経済部にいることが多かったのですが、現在は領事部の仕事が7割程度を占めています。経済部での私の業務は、主に日本企業のトラブルを聞き、関係部門に対して口上書を発出したり申し入れを行ったりして、日本企業の利益を守ることです。経済部の業務が大使館内でのオフィスワークが中心であるのに対し、領事部は現場中心主義で生々しく、臨場感にあふれています。目の前のA書記官は暴動が発生した新疆ウイグル地区に連絡をとり最新情報を確認し続け、隣のB相談員は、西北僻地で所持金が「600円!」になってしまった少年にポケットマネーを貸すために現地へ向かい、斜め前のC書記官は「超極秘案件」を担当し、部長室で業務をしている、そして私は、貴州で発生したビジネストラブル案件を東京の外務省担当者と電話で相談し、場合によっては現地へ出向くことも検討しつつ、隣横のABCら領事部員らのタイ

ミングを見て、本件の合議を開きます。このように、大使館内ではいろいろな人が、日中関係に絡むそれぞれの業務をこなしています。

3 弁護士と外交官

外交官の仕事は、週刊誌等で冷やかに書かれているような、毎晩高級ワインをたしなみ、外交特権を振りかざし高級車を乗り回しているというものではありません(実際に、そんなワイン通は当館にはいません。)。外交官になって印象に残っていることを幾つかご紹介します。

一つめは、着任の頃に担当したある案件です。旅行中の日本人女子学生が、足裏マッサージに行き、マッサージを依頼したところ、男性マッサージ師から性的被害に遭いました。当該被害女性は一日中泣き続けましたが、2日目に意を決し大使館を訪ね、中国の警察に被害届を出したいと言ってきました。私は彼女とマッサージ店最寄りの派出所に出向きましたが、このような性的被害の案件では、被害者の精密な供述調書が要求されます。派出所での供述調査の作成は、午後2時から始まり、夜中の11時半まで続けました。彼女は、ぼつりぼつりと供述をしていたのですが、疲労と恥ずかしい気持ちが一緒になって、とうとう泣き出してしまいました。すると派出所の刑事は、中国公安の警察バッジ(日本でいう警察手帳)を取り出して彼女の目の前に置き、「中国公安がついているから、怖いものは何もない。あなたが供述してくれなければ犯人を逮捕できない。もう少しだ、頑張ろう」と言って励ましました。彼女は、泣きながらうなずいて、最後まで被害状況を供述しました。この翌日、派出所は素早く容疑者を特定し、すぐに刑事事件として立案しました。私自身、こ

れまで中国の公安に対しては、必ずしも良いイメージを抱いてはいませんでした。この事件を機に、1人の中国警官の正義心に触れることになりました。悪いことは許せない、これが警官の基本であることに国境の違いはありませんでした。

二つめにご紹介するのは、大使館の大行事である「要人接遇」です。首相や大臣が北京へいらっしゃる際には、私たちは細心の注意を払い、日中首脳会談や晩餐会、記念イベントが順調に行われるよう配慮します。大使館のメンツにかけても、粗相は一切許されません。前回の首相訪中の際、私は、首相夫人の付き添い役を担当しましたが、付き添い役は、夫人が順調に日程をこなせるよう、衣食住すべてに配慮します。

特に気を遣うのは意外なことに「車列」です。首相が政府専用機で首都国際空港へ到着した際、あるいは式典にご出席される際には、大使や夫人、秘書官、日方SPと中方SP、通訳、マスコミ等、とたくさんの人が同行していますから、首相車を含め、車列は計10台以上になります。他国のVIPも参加する式典では、数カ国の車列(合計100台以上になる)が、人民大会堂や釣魚台の前に陣取りますが、いずれも黒の高級セダンなので、見分けがつきません。付き添い役である私は、その車群から夫人車を確認した上で、式典終了の人込みの中から夫人を捜し出し、限られた時間内(乗せ込みまで1分以内が原則)で間違いなく夫人車にお乗せします。これは至難の業です。

このような「要人接待」に時間と労力をかけるなんてばかばかしいものに映るかもしれませんが、しかしながら、首脳の来中が実を結び、日中関係がより相互発展のためになるよう、全館員が一つになって何かをやり遂げるとい

う一体感はなかなか気持ちがいいものです。

最後にご報告したいのは、なんと言ってもこの国の「大きさ」を実感したということです。週末や休暇、出張等を利用して、全省訪問を実現しました。回教徒が多く独特の文化を持つ新疆ウイグル地区、731部隊記念館や偽満州国八大部等が残る東北地方、今年話題になった映画「南京！南京！」の舞台でもある南京、文革による文化遺産の破壊が生々しい洛陽等、どの地方にも独特の文化があり、刻まれている歴史があります。それぞれの地域によって、飲食や生活習慣、宗教観、遵法意識、対日感情等も異なります。私たちは、ややもすると隣国のこの大国を「中国」とひとくくりにしますが、それがいかに危険なことかを感じ入ります。そして、この隣国の企業や地方政府と提携をして、利益を得たいのであれば、相手がどのような地域でどのような歴史観を持つのか、十分に調査・研究する必要があります。顔立ちが似ていて、漢字を使って文章を書き、箸を使って料理を食べてはいますが、これだけ多くの民族の異文化を一抱えにしているこの大国は、日本とは全く違うということを再認識しました。

4 さいごに

外交官は、大手渉外弁護士事務所の国際弁護士のような国際性や交渉力、そして、精密な文書作成能力が必須ですが、他方で、刑事事件もビジネストラブルも相続案件も嫌がらず臆せず引き受け、地域の人から信頼される町弁の要素も必要です。私はどちらの才能も欠いているので、毎日の職務遂行は大変ですが、それだけに、日々新鮮な気持ちで仕事をする事ができています。残りの任期、日中関係のために尽力したいと思っています。